

研究主題

音楽活動の楽しさを実感する子どもの育成（2年次）
～音楽科を中心に～

1 主題設定の理由

(1) 学校の教育目標の実現

本校の学校教育目標は「未来に向かって 命かがやく 笑顔あふれる うしおっこの育成」である。「命を大切にし、子どもたちの笑顔があふれる学校・明日も行きたくなる学校に！」を根底にし、重点として

- 授業づくり 勉強が楽しい
- 集団づくり 仲間が好き
- 関係づくり 会いたい人がいる

を挙げている。

このような児童の育成は、研究主題の「音楽活動の楽しさを実感する子どもの育成」を目指すことにつながる。したがって、本研究主題を追求した実践により、学校教育目標を具現化できるものと考えている。

(2) 学習指導要領の要請

学習指導要領では、育成すべき資質・能力の柱として次の3つが示されている。

- 生きて働く「知識・技能」の習得
「何を理解しているか、何ができるか」
- 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
「理解していること・できることをどう使うか」
- 学びや人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養
「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」

すなわち、これからの激動の社会に向けて、学校教育では、知識や技能に加えて、思考力・判断力・表現力等と学びに向かう力・人間性等を総合的に捉え、児童一人一人に課題解決の力を育成していかなければならない。そのため、「課題の発見・課題解決に向けた主体的・対話的で深い学び」への授業改善が求められている。自分の考えをもち、考えを伝え合って交流し、話し合うことで新たな考えや疑問を生み出すといった学び合いの場面が中心に据えられた授業づくりが大切になる。このことを踏まえ、音楽科において、自分の思いを音楽表現につなげたり、友達と意見交換をしたりして、音楽活動を楽しむ児童を育成していくことは、本研究主題とも合致している。

(3) 本校の実態から

本校は、昨年度から研究主題を「音楽活動の楽しさを実感する子どもの育成 ～音楽科を中心に～」と設定して、児童が「音楽活動の楽しさを実感」できる授業づくりを目指して研究に取り組んできた。その結果、以下の成果と課題が見られた。

- ◎ねらい達成の手立てとして、授業にペア活動やグループ学習などの小集団活動を、積極的に取り入れたことで、共同的な学びができていた。
- ◎自分の考えや思いを伝えることのよさを感じ、言葉にして表現できる子どもが増えた。
- ◎他校で学んだ「児童が主体的に取り組みたい」と思える活動を設定することができた。
- ◎子どもの実態を考えたワークシート、提示の教具を使うことができ、個に合った学びの支援となっていた。
- ◎学習の足跡が残る掲示が、既習事項や音楽の要素を使って考える手立てとなっていた。
- ◎学習の流れが分かる板書となっていた。子ども達も見通しをもって学習できていた。
- 音楽という教科の専門性に関わる部分に、指導者が自信をもてなかったり、知識や技能がついていかなかったりするところがあった。どんな力を育てたいかを明確にできないところもあった。
- 時間配分が計画通りにいかず、振り返りの時間が十分にとれないことがある。また、音楽科の振り返りについての視点や取り組み方も課題であった。
- 子どもたちの感じた音楽の楽しさを、今後それぞれの授業でどう生かしていくかを考えていく必要がある。
- 題材や教材で扱う音楽の要素について精選していく必要があった。
- 評価の場面がやや曖昧な授業もあった。

今年度は、これらの成果と課題を踏まえて、昨年度までの研究を継続・発展させることとし、研究主題を「音楽活動の楽しさを実感する子どもの育成（2年次）」に設定し、継続して「音楽活動の楽しさを実感」できる授業づくりについて研究を進めていく。

また、来年度は本校で県音楽研究大会が開催され、「音楽づくり」の授業を行う。そこで、今年度は「音楽づくり」の領域を中心に、子どもたちが音楽を楽しみながら学んでいく授業を目指した授業展開、方法を探っていくこととした。

2 主題の受け止めと目指す子ども像

(1) 主題の受け止め

①音楽を楽しむ環境

- ・音楽の授業の中で、誰もが自分にできることをがんばっていると感じられること
- ・音楽の授業の中で、誰もが認められていると感じられること

②主体的な学び

- ・課題解決に向けて、誰もが自分の考えをもち、最後まで粘り強く取り組もうとすること
- ・課題解決の過程を振り返り、「できた」「わかった」という達成感をもち、楽しい、もっと学びたいという思いをもつこと

③対話的な学び

- ・自分の言葉で自分の考えや思いを他者へ伝え、表現すること
- ・互いの考えや思いを伝え、聞き合い、受け止め、生かそうとすることによって互いの考えをよりよいものにして表現していくこと

(2) 目指す子ども像

- ・主体的に音楽活動に取り組む子ども
- ・音楽活動をする楽しさを感じる子ども

3 研究目標

子どもたちが音楽の楽しさを実感するためには、どのような学習の流れと学び方が効果的であるかについて、授業研究、実践を通して学ぶ。

4 研究仮説

- (1) ねらいを明確に示し、子どもが主体的に取り組みたいという活動を設定すれば、音楽の楽しさを感じる子どもが育つであろう。
- (2) ねらいにそった指導の手立てを工夫したり、学習活動を展開したりしていけば、音楽を楽しみ、充実感をもつことができるであろう。

5 研究内容

音楽活動の楽しさを実感する子どもの育成を目指し、子どものよさを伸ばしながら、誰もが子どもと楽しみながら取り組める音楽の授業づくりを考える。

(1) ねらいを明確にし、音楽を楽しむための授業構成・授業展開の工夫

①授業構成プラン作り・・・他校の取組に学ぶ

- ・やってみたいという意欲や、できそうだという見通しを持つ課題の設定
- ・協働学習の明確・適切な問いの提示
- ・よりよい考えが生み出される話し合いの展開
- ・ねらいや知識及び技能の習得を意識した常時活動

その時間のめあての達成のみにこだわらず、子どもが楽しいと感じる活動の設定

②授業展開の実践

- ・学習課題や学習活動の焦点化
- ・学習課題（どんな力をつけさせたいかを明確にして設定）
- ・学習活動（どんな内容をどんな活動でどんな順序でどこに重点を置いてを明確にして展開）
- ・ICTの効果的な活用について
- ・学びの楽しさ

なかまとともに学習した喜びや成果を互いに認め合えるような振り返りの工夫

(2) 音楽を楽しむ環境構成の工夫

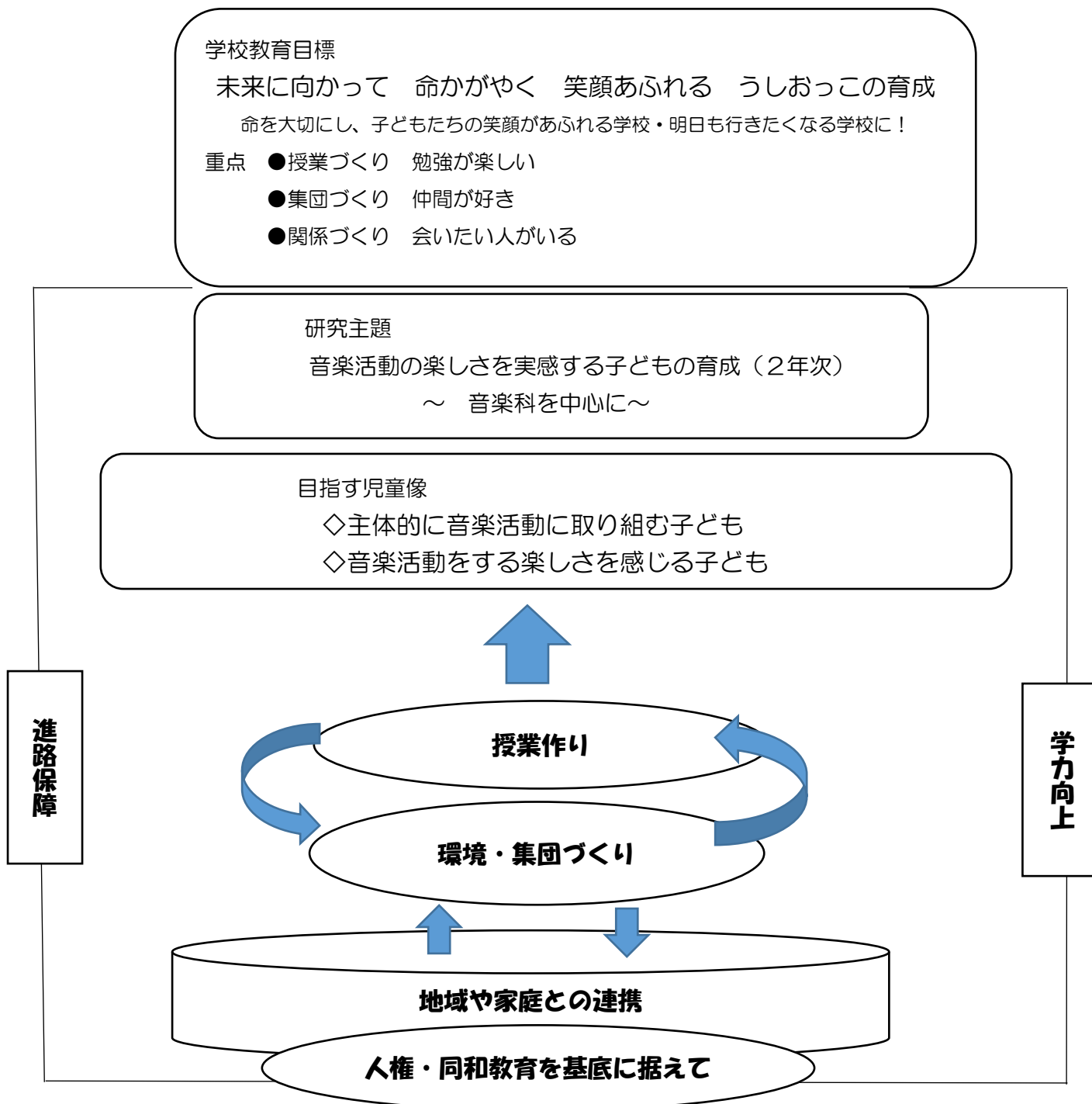
①学校の土壌作り

- ・今月の歌
- ・音楽集会
- ・外部講師による合唱指導

②地域とのつながり

- ・ 神楽クラブ、銭太鼓クラブ

6 研究構想図



7 研究推進計画

| 月 | 内 容 |
|------|---|
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> 研究概要の構築→共通理解 研究内容・研究計画の具体化 |
| 7 | <ul style="list-style-type: none"> 学力育成に係る学校訪問指導【7月9日】 |
| 8 | <ul style="list-style-type: none"> 校内研修（音楽科） 学力調査分析会 |
| 9～12 | <ul style="list-style-type: none"> 各学年の取組 学校訪問に向けての授業の検討 |
| 1～2 | <ul style="list-style-type: none"> 研究のまとめ 研究部会 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> 次年度の研究に向けて（研究推進委員会） |

8 研究組織

| 組織 | 活動内容 | メンバー |
|---------|--|---------------------------------------|
| 研究推進委員会 | <ul style="list-style-type: none"> 研究の方向性 内容の確認 | 企画会メンバー |
| 授業作り | <ul style="list-style-type: none"> 指導案作り（指導案・教材開発） 授業研究の運営 学年での授業 | 研究部を中心に 松本 福田 山本 植田 青山 永瀬 松本 |
| 環境・集団作り | <ul style="list-style-type: none"> 音楽集会 環境整備 ふるさと教育（神楽・銭太鼓） | 松本 永瀬 光谷 横山 野々村 岩田 植田 |
| 学力向上 | <ul style="list-style-type: none"> 学力調査分析→解決策の作成→実施 漢字会、計算会 ・朝学習 | 永瀬 松本 |